

2019

年度事業報告書

2020

年度事業計画書



認定NPO法人



JHP・学校をつくる会

JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

2019年度 事業報告書

2020年度 事業計画書

CONTENTS

■ ごあいさつ	3
■ JHP の活動・歩み・理念	4-5
■ 学校建設（カンボジア）	6-7
■ 学校建設（ネパール）	8
■ 衛生教育（カンボジア）	9
■ 初等科芸術教育支援事業	10-11
■ 音楽・美術教育支援事業	12
■ CCH・アート・プロジェクト	13
■ 教育支援（幸せの子どもの家）	14
■ ボランティア派遣	15
■ 成人識字教育事業	16
■ 災害救援 復興支援	17
アフリカへ毛布をおくる運動	
■ 啓蒙活動	18-19
■ 組織運営	20-21



ごあいさつ

日ごろ全国各地から寄せられる皆さまの温かいご厚情とご支援に心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

2019 年度の後半に来て、全世界的に流行しております新型コロナウイルス感染症の影響で大変不自由な生活の毎日をお過ごしのことと存じます。JHP 東京事務所は、国・都の要請に応じて、一定期間在宅勤務を実施しました。JHP も 1993 年に設立して以来で初めての経験です。新年度に定例化している諸行事や活動内容も制限されてきます。

私どもは 2019 年度までに皆様のご支援によりカンボジアに 359 棟、ネパールに 14 棟の校舎を建設寄贈し教育支援活動に取り組んでまいりました。また、カンボジアに音楽や美術教育の育成に独自で取り組んでまいりましたが、国として初等科教育の科目に制定するために要請を受けた JHP は教科書や指導要項の策定に取り組んでおります。

内戦最中の子供たちは十分な教育を受けられなくて育った今の大人たちは読み書きや計算も出来ません。JHP は新事業として成人識字教育事業の活動に取り組んで 2 年目になりました。そこで学んだ大人たちは田畑仕事だけからより良い条件の仕事にも就けるようになりました。

引き続き JHP は東京都から認定 NPO 法人の認可を受けました。皆様のご寄付は所得税控除が受けられます。2020 年度は厳しい環境の終息が見えない状況でありますが、早くに終息する事を願いつつ、JHP がさらなる発展に向けて活動できますように、皆様には変わらぬご厚情を宜しくお願い申し上げます。

山内美江子



JHP の活動・歩み

1990	イラクに入国できず、ヨルダンにて活動。	
1991	JHPの前身であるJIRACとして湾岸戦争後に取り残されたクルド難民の救援を学生達とイランで実施した。 小山内美江子と二谷英明らがカンボジア難民救援のため、タイ国境キャンプを視察し準備に入る。	
1992	タイ国境からのカンボジア帰還難民救援活動の中から、子どもたちのための学校建設の必要性を把握。	
1993	9月15日にJIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立。 カンボジア活動隊派遣開始（以降年2～3回を継続）。	(写真A)
1994	JEN設立に代表小山内が参画。駐在員1名をユーゴスラビアへ派遣。	
1995	阪神淡路大震災発生。当日から救援活動開始。 カンボジアにプノンペン事務所設置。旧ユーゴスラビア隊を定期的に派遣。	(写真B)
1996	音楽教育プロジェクト開始。カンボジアに音楽教師1名を派遣。 アフリカに毛布を送る運動の構成団体として学生の現地派遣開始。	
1997	4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。 地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)の構成団体となる。	
1998	カンボジア教育省とNGO活動の合意書を結ぶ。	(写真C)
1999	美術教育プロジェクト開始。日本人教師1名派遣。初の絵画展を開催。	
2000	10月に東京都より特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受け、11月に登記完了。 プノンペン市認定の音楽教師7名を誕生させる。	
2001	JENの構成団体としてインド地震救援隊4名派遣、テントなどを支援。 カンボジア王国と覚書を交わし正式なNGOに認められる。	
2002	ユニセフと合同でアフガニスタン支援実施。駐在員1名派遣。 JHP初の孤児院完成。CCH(幸せの子どもの家)支援開始。	(写真D)
2003	JHP初のラオス校舎完成、ボスニア活動隊4名派遣、100棟目の校舎完成。	
2004	1月1日に日本で19番目に国税局より認定NPO法人の認知を受けた。 新潟水害、中越地震の支援活動実施。	
2005	カンボジアにて第1回音楽コンテスト実施(以降年1回実施)。 JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金スタート。	
2006	小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ開催。 代表小山内がカンボジア王国よりモニサラボン大十字勲章受章。	
2007	設立15周年記念祝賀会を開催。マーチングバンド、CCHの子どもが来日出演。	
2008	1人1万円の呼びかけで631人が賛同し、200棟記念校舎が完成。 代表小山内が第20回毎日国際交流賞を受賞。	
2009	国際ボランティア・カレッジが第3回浄土宗共生(ともいき)・地域文化大賞を受賞。 新たな支援対象国の候補としてネパール調査を実施。	
2010	アカウンタビリティ・セルフ・チェック2008を実施。	
2011	東日本大震災発生(3月11日)。仙台市若林区、南三陸町にて支援活動を行う。 平成23年度外務大臣表彰を団体として受賞。	(写真E)
2012	JHP初となるネパールでの学校建設を開始する。 JHP創設者の一人で元副代表の二谷英明氏が1月7日に逝去する。 公益財団法人かめのり財団より、「第5回かめのり賞」の表彰を受ける。	
2013	JHP行動基準が制定される。(詳細は裏表紙を参照) JHP初となるネパールでの校舎が2棟完成し、贈呈式を行う。 300棟記念校舎が完成。	(写真F)
2014	2月24日に東京都より認定NPO法人の認定を受けた。 設立20周年を祝う、記念の集いを開催。 教育支援事業の充実を目指した「ドレミとアート基金」設立。目標300万円を達成。	
2015	外務省日本NGO連携無償資金協力の助成事業に採択される。	
2016	熊本地震発生。益城町への継続支援を実施。(4月～) JICA草の根技術協力事業「カンボジア王国 初等科芸術教育支援事業」が開始される。(8月)	
2017	ASACカンボジアに学校を贈る会より識字教育事業を継承。2018年9月から教室開講。	
2018	JHP25周年記念祝賀会開催。	(写真G)

JHP の理念

JHPは、戦争や自然災害で教育の機会を奪われた世界の子ども達に、人種、国籍、宗教、その他の信条の違いにかかわらず広く教育等の援助を行ない、また紛争や自然災害による被災地・被災者への救援活動と、これらの活動を通じて次代を担う若者達への地球市民教育を実践することを目的とする認定NPO団体です。



(写真 A) カンボジア活動隊派遣開始



(写真 B) 阪神淡路大震災救援活動開始



(写真 C) カンボジア教育省と合意書締結



(写真 D) CCH 支援開始



(写真 E) 外務大臣表彰を受賞



(写真 F) 300 棟記念校舎完成

■設立経緯

代表の小山内美江子は、1990年の8月、イラクによるクウェートへの武力行使によって勃発した湾岸戦争に際し、ヨルダン難民キャンプに出向き、はじめての海外ボランティアを経験しました。湾岸戦争時、「顔の见えない日本人」と批難されたことが行動の原点であり、共に活動した大学生の日々の成長に小山内が感動したことが、後のカンボジアでの活動に繋がっています。

JHPの前身団体JIRAC（日本国際救援行動委員会）でカンボジア担当だった小山内美江子と故二谷英明（俳優、JHP元副代表）が、パリ和平協定調印後の1991年12月にタイ国境の難民キャンプを視察し、更に92年活動の調査のため、カンボジア入りしたあと、1992年7月から学生らと共にタイからの帰還難民の救援に汗を流しました。その時の活動を通じて、学校建設の必要性を痛感し、1993年9月15日に同JIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立しました。

1997年4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。2000年10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記を完了。2004年1月1日に国税庁より認定NPO法人の認定を受けました。



(写真 G) JHP25 周年記念祝賀会

学校建設 (カンボジア)

■建設支援リスト

建設累計	支援学校名	地域	受益者 (生徒数)	受益者 (教員数)	主な支援内容							
					校舎		トイレ		机、 椅子	井戸 水タンク	手洗い 場	靴箱
					棟	室	棟	室				
350	ドントリー小学校	バットタンバン州	420	14	1	4	1	3	100	1		12
351	モーン小学校	トゥボンクモム州	83	3	1	3	1	3	75	1		9
352	バラン小学校	クラチエ州	98	3	1	3	1	3	75	1		9
353	バйдムラン中学校	バットタンバン州	376	26	1	3	(1)	(4)	75	0	3	9
354	プレイロー小学校	スワイリエン州	312	7	1	1			5			3
355	アキラブーンズワイ小学校	シェムリアップ州	210	8	1	5			42			15
356	ドオンティウ小学校	プレイベン州	229	5	1	3			75			9
校舎補修					(1)	(3)						
付帯設備	コークスロラウ小学校	コンボンチャム州	324	10			1	3		1		
付帯設備	カンボジア日本友好校学園	シアヌークビル州	1342	51			2	10				
付帯設備	イヤーボアウ小学校	タケオ州	183	8			(1)	(4)				
付帯施設	コンターナン小学校	コンボンチャム州	1034	18			1	4				
校舎補修					(1)	(4)						
付帯施設	チッダイ中学校	スワイリエン州	224	19						1		
合計(2019年度実績)			4835	172	7	22	8	29	447	5	3	66
357	バйдムラン小学校	バットタンバン州	207	10	1	5			125			15
358	トゥールスノール小学校	バットタンバン州	253	5	1	4			4			12
359	サマコム小学校	トゥボンクモム州	349	8	1	5			125			15

*358の机・椅子は、日本からのリサイクル品を160セット寄贈予定。教師用4セットのみ現地購入予定。(P.7参照)

*実績の()内の数字は、既存施設の補修棟数と室数を示します。2020年度の実績には加算していません。

*357～359は2019年度内に未完成のため、実績は2020年度に加算します。



調査時に撮影したバラン小学校の老朽校舎



老朽校舎で勉強するバラン小学校の生徒

■支援概況

各地の学校や州や郡の教育局から寄せられた要望書に基づき調査を実施し、その中から、

- ①教室の不足
- ②校舎の老朽化、又は倒壊の危険
- ③小学校全学年の収容不能
- ④校舎以外の設備が必要な学校

など、各学校が抱える状況をスタッフが直接確認し、優先度の高い学校から建設を行いました。

今年度はカンボジア 6 州に小・中学校 7 棟 22 室、校舎補修 2 棟 7 室、トイレ 8 棟 29 室、給水施設 5 基、手洗い場 3 ヶ所を建設し、総受益者は生徒 4,835 名、教員 172 名の成果を得ました。

これにより、カンボジア国内での校舎建設数はカンボジア 20 州で 359 棟（着工済校舎を含む）、ラオス 1 棟とネパール 14 棟を加えた総実績は 374 棟となりました。

また、年間を通して学校調査を行い、今後の事業継続のための情報収集と支援者への提案を行いました。



ドントリー小学校新校舎
トイレ、給水タンク



ドントリー小学校の授業風景



バйдムラン中学校に建設した手洗い場

■カンボジアにおける校舎建設の実績

2018～2019 年度の教育省統計では、公立の小学校は 7228 校、中学校は 1246 校、高校は 525 校で合計は 8999 校となり、前年度より 62 校増えています。その中で、JHP は支援校 288 校（約 3.2%）の支援に携わっています。

■カンボジアと日本を繋ぐ各種コーディネート

学校建設事業では、校舎贈呈（6 回）、付帯施設贈呈（8 回）、ボランティア活動（遊具建設、校舎補修作業など 9 回）、交流会（12 回）など、年間 21 組 195 人を受け入れました。

プロジェクトの背景

国際機関や NGO 等の援助により、カンボジアの状況は改善されつつあるが、都市と遠隔地の経済格差やインフラ（教育環境を含む）の格差は拡大している。小学校の就学率は上昇しているが、不完全校（6年生まで受け入れができない小学校）や教室不足の学校、老朽化が進み危険な校舎を利用している学校は未だに多い。中学生は増加しているものの、粗就学率は約 6 割に留まっている。中学校では、教室や教員不足を招いている学校も多く、生徒が過密な環境で学んでいたりと、正規の時間数が学べなかったりなどの弊害も出ている。また、公立幼稚園の数と児童数の増加、都市部での私立学校の増加などの傾向が出ている。

■学習環境を維持、向上させるための継続支援



（写真 A）
サマキボンスマイチ小学校での文具寄贈

カンボジアの各学校は、国からの予算が不足しているため、学用品、図書、備品などの購入代、校舎修理代などを十分に賄えません。

2019 年度は、校舎贈呈式実施校 6 校を含む約 30 校に対して、文房具・教材（写真 A）、図書、学校用備品（時計、世界地図、ゴミ箱）、校舎補修・塗装用具、リサイクル PC、遊具・運動設備を寄贈しました。これらは、教師と生徒の意欲や自主管理の意識を高め、運営面の向上にも役立っています。

■「江東区」及び「江東区海外リサイクル支援協会」との連携で中古机・椅子を輸送



（写真 B）
寄贈後に有効に活用される中古の机・椅子
（過去の支援校の例）

2019年度は、寄贈を受けた机・椅子200セットのうち、160セットをバットアン州トゥールスノール小学校、残り40セットを同州2校の小学校に寄贈する計画でしたが、カンボジアの学校休校に伴い、2020年度に延期となりました。学校再開後、江東区の小・中学生が書いた寄せ書きと合わせて寄贈します。海上輸送のコンテナには、江東区をはじめ全国から寄せられた楽器等も積み込み、各種支援に備えることができました（写真 B）。

■各種インタビュー

JHPは、子どもたちの学びに欠かせない校舎、衛生施設、学用品、図書、各種備品などをニーズに合わせて支援しています。スタッフ自ら現場に入り、支援前のニーズ調査から支援後の視察など、関係者の声を聞いています。2019年度は、支援後の学校を約40校視察し、今後の活動を検討すると共に日本の支援者に報告を行いました。



学校名：サマキボンスマイチ小学校
（贈呈後15年経過）
名前：ドン・ティア・ラ
年齢：29歳（6年生を担当）

2001年から2007年までここで勉強していました。その後、高校を卒業し、教員免許を取得し、ピームチョー郡にある小学校で働き、2016年より母校に戻り、教員をしています。地元の子供達と私の知識を共有することができるので、私は教員の職が好きです。昔と比べると、校庭はいつもきれいに保たれ、トイレ、フェンス、ベンチ等も設置され、良い環境になったと思います。しかし、フェンスも全てに設置されておらず、一部修繕が必要な窓もあります。少しずつ環境を改善できたらと思います。校舎だけではなく、毎年文具を支援していただき、ありがとうございます。



学校名：チューティエル中学校
（贈呈後7年経過）
名前：チャン・ソー・ピア
年齢：23歳 教員経験：3年

私が中学3年生の頃、校舎の支援を受けました。当時の夢は通訳になることでしたが、地元で子ども達の教育に関わりたいと思い、3年前から母校で英語とICTのクラスを担当しています。昔と比べ、学校内の環境は大きく改善されたと思います。昔は池もあり、雨が降ると敷地が浸水することもあったのですが、今は土を入れ、フェンスを設置し、良い環境になったと思います。私はここで教員として勤務することができて幸せです。ありがとうございました。

学校建設（ネパール）

■ネパール校舎累計で 14 棟 63 教室完成 新たに3校舎建設へ

2011 年に始まったネパールに於ける学校校舎建設事業は 2019 年度末までに 14 棟、63 教室が完成し贈呈することができました。皆様のご支援に心から感謝いたします。

2019 年には 5 月にサラスワティブタバリ高校（幼稚園生から高校生までが同じキャンパスで学んでいます）の 2016 年に贈呈した校舎の 2 階に 4 教室、11 月にナヴァドルガ学校に 4 教室が完成し贈呈式を行いました。サラスワティブタバリ学校はジャバ県のネパールを東西に貫く国道から見える茶畑の中、ナヴァドルガ学校はジャバ県の北部イラム県に近いそろそろヒマラヤへの登り坂が始まる村の学校です。サラスワティブタバリ学校は 2 階建てとなり立派な校舎が国道からよく見え JHP の支援が村の人々だけでなく国道を通る人にも広く認知されることになりました。5 月に行われた同校の贈呈式にはドナーの H 様ご夫妻が出席されました。また 11 月に行われたナヴァドルガ学校の贈呈式にはドナーの I 様ご兄弟が出席されましたが、同時に第 2 回ネパールスタディツアーに参加された 9 人の方も参列され盛大な贈呈式となりました。JHP が現在建設している校舎は主に平屋のブリキ屋根の校舎ですが、屋根は従来の校舎より高くはなっているものの夏場は教室内の温度が高くなるため今回のナヴァドルガ学校には天井据え付けの扇風機を取り付けました。同時に 2017 年に建設したジャミルガディ学校のドナー K 様も今回のツアーに参加され同校への継続支援として扇風機を贈呈されました。

2020 年春には現在建設中のサガルマータ学校の 5 教室とラックスミラニアン学校の 2 教室が完成します。贈呈式を 3 月に予定していましたがコロナウイルスのため贈呈式を 5 月以降に延期しました。4 月からはさらに 1 棟ないし 2 棟の建設が予定されており秋に完成の予定です。

すし詰めの教室で勉強に励んでいるネパールの子供たちの教育環境を少しでも改善するため、引き続き皆様のご支援を切にお願い申し上げます。



サラスワティブタバリ校舎



サラスワティブタバリ贈呈式



ナヴァドルガ校舎



学校に到着したドナーの方々



ナヴァドルガ贈呈式

プロジェクトの背景

2009 年度より事業方針として掲げていたカンボジア以外の国における学校建設支援の検討を開始し、調査を進めていたところ、ネパールの公立学校の教育環境がカンボジア同等に劣悪であることが分かり支援を行うことになった。2010 年に現地調査を行い、現地の NGO ガナシヤムメモリアルファンドとの連携を図りながら準備を進め、支援対象地域と候補校を具体的に絞り込み、当会がカンボジアで培った建設ノウハウを設計図や資材に反映させながら 2011 年 12 月、2 階建て 8 教室の校舎建設を始め、2013 年 1 月に初めての贈呈式を行った。

衛生教育（カンボジア）

■カンボジアの教育を支える衛生施設

「学校にトイレがなかった時は、授業中でもトイレのために自宅に戻っていました。」と話すポー分校の生徒セン・スレイ・ナさん。カンボジアでは学校にトイレがない場合、近隣住民に貸してもらうか、自宅に帰るかどちらかの選択になります。また、雑草等を生い茂らせ、そこを一時的なトイレとして使用する学校も中にはあり、十分に整った衛生環境下で教育を受けることができない学校も中にはまだ存在します。

JHP では 2019 年度はトイレ 8 棟 29 室、給水タンク 5 基を支援しました。その中で、子どもの数の急増により、深刻なトイレ不足に悩む学校も多く存在します。

2019 年 11 月に 1 棟 4 室のトイレの贈呈を行ったコンターナン小学校では、全校生徒の数が 1,048 名に対し、校内にはトイレが 2 棟 8 室のみだったため、131 名の生徒が 1 室を使用している状態でした。カンボジア王国教育・青少年・スポーツ省では 1 室に使用する生徒の数を 35 名から 40 名を基準とし、2025 年までに全ての学校が水・衛生施設へのアクセスを実現することを目指しています。



ポー分校 1 棟 2 室トイレと室内



コンターナン小学校 1 棟 4 室のトイレ



2017 年に支援されたポー分校 授業風景



コンターナン小学校の生徒達

トイレが支援される前は当校にトイレがなく、近隣住民の家のトイレを借りるか、近くの茂みの中で用を足す生徒も中にはおりました。現在はトイレができたので、生徒達は学校内のトイレを使用しています。現在は近くの茂みを伐採したため、蚊や蛇も減りました。トイレがあることで、教員、生徒達の衛生に関する意識が向上したと思います

ポー分校
ベン・シラック先生
30 歳 教員経験：8 年



初等科芸術教育支援事業

2019年度 JICA草の根パートナー型「カンボジア王国 初等科芸術教育支援事業」

今年度は主に2つの活動「初等科芸術教科の生徒用教科書および教師用指導書づくり」と「ナショナルトレーナーの育成とパイロット事業」を中心に実施しました。

■初等科芸術教科の生徒用教科書および教師用指導書づくりを継続

カンボジアの教育省の職員で構成されているワーキンググループとともに、引き続き初等科芸術教科の教科書と指導書づくりを進めています。芸術教科の教科書・指導書は、大きく「美術と手工芸」と「音楽と踊り」の2つの科目に分かれており、それぞれ作成のプロセスも異なっています。

●美術と手工芸

1年生から始まった美術科目の教科書・指導書づくりも、現在は高学年の教科書・指導書作成に入りました。カンボジアにおいて、ワーキンググループのメンバーとともに、授業実践および教科書・指導書づくりを行うとともに、日本において、教科書・指導書ページを精査するための美術教育専門家4名による分科会を実施しました。また、美術教育専門家を派遣し、高学年指導および指導案作成への理解を深めるためのワークショップを実施しました。

(水島尚喜先生／2019年7月11日～14日)

●音楽と踊り

音楽科目の教科書・指導書づくりは、カンボジア人音楽専門家らとともに、日本の音楽教育専門家のアドバイスを受けながら、カンボジアでの会議、作業を中心に行っています。学年毎に設定されたそれぞれの曲題材に準じて、発達段階に則した活動内容を検討し、児童が様々な音楽活動を楽しむことができるような教科書・指導書づくりを進めています。



ワークショップの様子



教科書・指導書作成のための実践事業の様子

プロジェクトの背景

カンボジアの音楽・美術教育は、教育課程の中で独立した科目でなく、「社会科」の一部として位置づけられており、指導に十分な時間数がありません。また、学校の経済状況や教員の技術・知識が十分でないことから授業が実施されていないケースもあります。授業を行っている数少ない学校においても、音楽の指導内容は歌詞の書き写しや伝統楽器の名称を覚えることなどに限られています。美術においても、指導内容のほとんどは臨画（模写）です。子どもたちが音楽や美術を通じた自己表現活動により、協調する力や表現力、豊かな感性と心の情操を育む機会は極めて少ないといわざるを得ません。

■ナショナルトレーナー候補の育成とパイロット事業の開始

本年度新たにパイロット事業を開始しました。展開は次の通りです。1、日本人専門家が、ナショナルトレーナー候補へ研修を行う。2、研修を受けたナショナルトレーナー候補が、パイロット事業対象地の小学校の先生へ研修を行う。3、研修を受けた先生方が、自分の学校へ戻り、教科書・指導書を用いて担当クラスの生徒へ美術・音楽の授業を行う。4、ワーキンググループメンバーが、それらの学校で実践して得たフィードバックを基に、より使いやすい教科書・指導書にするための改訂作業を行う。

2019年度には、このパイロット事業の対象地および対象校がタケオ州の4校に決定し、キックオフミーティングおよび事前モニタリングを行いました。また、日本人の専門家を派遣し、ナショナルトレーナー育成のための研修を実施しました。詳細は以下の通りです。

【対象者および対象地】

- ・ナショナルトレーナー候補：プノンペン教員養成大学の芸術科教員
- ・対象地および対象校：カンボジア王国タケオ州2郡の小学校4校

【活動】（ ）は活動に伴い派遣された専門家名

- ・ナショナルトレーナー育成研修のプログラム検討ワークショップ：

美術 2019年5月21～24日（藤江充先生）

音楽 2019年10月9～11日（津田正之先生、井上和夫先生）

- ・タケオ州でのキックオフミーティング：2019年11月15日

- ・対象校4校での事前モニタリング：

美術 2019年11月25～29日（水島尚喜先生）

音楽 2019年12月2～6日

- ・ナショナルトレーナー育成研修：

第1回音楽教育研修 2019年12月26～27日（井上和夫先生）

第2回音楽教育研修 2020年1月6～11日（津田正之先生）

第1回美術教育研修 2020年1月20～23日（藤江充先生）

第2回美術教育研修 2020年2月10～15日（辻政博先生）



第1回音楽教育 NT 研修の様子



第2回音楽教育 NT 研修の様子



第1回美術教育 NT 研修の様子



第2回美術教育 NT 研修の様子



NT = ナショナルトレーナー

■その他

事業も4年目に入ったこともあり、JICA 東京からモニタリングチームの受け入れを行いました。2020年2月に行った辻政博先生によるナショナルトレーナー育成のための第2回美術教育研修の視察および関係者からのヒアリングが行なわれました。

音楽・美術教育支援事業（フォローアップ事業）

■地域や学校に根づいた音楽・美術教育を目指して

これまでにカンボット・スバイリエン州で実施した美術教育支援パイロット事業、そして、プレイベン州のコンポントラバイク郡で実施した音楽教育パイロット支援事業。これらの対象地において、群の教育局や対象校がそれぞれ自分たちの手で美術・音楽活動を継続していくために必要とされる支援を継続しています。また、指導者がいながら楽器の不足で音楽の授業の実施が難しい学校や教育機関などへの楽器寄贈も幅広く行っています。

●音楽（プレイベン州コンポントラバイク郡）

【音楽講習会および郡や対象校による音楽イベントの開催支援】

郡の教育局の担当職員と話し合い、2018年から郡の教育局が行っている音楽のスキルアップを望む教員を対象とした音楽講習会、また郡および対象校が主催する音楽イベントへの間接支援を継続しました。



世界こどもの日式典の様子



群の担当者・トレーニングを受けた教員と子どもたち

●美術（カンボット州、スバイリエン州）

【美術の授業の継続、自校開催の絵画展、国際コンテストへの参加などを目的とした画材の寄贈】

昨年に引き続き、株式会社 山田養蜂場が主催する「第7回ミツバチの一枚画コンクール」への出品支援を行いました。カンボット、スバイリエン両州の32校から出品された生徒の作品の数は全213点で、海外作品部門において Seng Ravin さん、Sose Serphynase さんの作品が入賞しました。また、各校における美術の授業の継続、ならびに自校開催の絵画展の実施を側面支援するために画材の寄贈も実施していきます。



Sose Serphynase さんの作品

●楽器寄贈

【地域や学校への楽器寄贈】

リクエストの届いた教員養成校や中学校などへ楽器の寄贈を行いました。寄贈に際しては、器楽の指導を行える指導者がいること、具体的な指導計画と時間が確保されていること、楽器の使用や管理の持続性が考慮されていることなどを確認しています。



Seng Ravin さんの作品

CCH・アート・プロジェクト

■自己表現活動を通した、青少年の健全な育成を目指して

本事業は、ローラ・ワールドスカラシップ基金の支援により 2015 年より実施しています。子どもたちが想像性や感性、創造力、表現力などの資質能力を発揮できる場を提供することを目的とし、様々な自己表現活動を実施しています。

○アートクラブ

毎週金曜日をアートクラブの日として、美術や音楽に関わる様々な表現活動を行っています。



アートクラブの様子



大好きな友達を表現したよ



アートクラブの様子



20年後の世界は・・・



葉っぱも楽器になるよ

○ワークショップ

今年度はアーティストによる身体表現や音楽のワークショップも開催しました。

コンテンポラリーダンサーによるワークショップでは、自分の名前を身体で表現する、音楽を聴いて連想した動きをする等の活動にチャレンジしました。初めての経験にはじめはとまどっていた子どもたちでしたが、次第に全身を大きく使いのびのびと活動することができました。また、音楽のワークショップではそれぞれが描いた絵をもとにグループで歌詞を考えました。



身体表現ワークショップ



音楽ワークショップ



教育支援（幸せの子どもの家）



支援者の皆さまへ

CCH所長（理事）メチ・ソカ

2002年のCCH設立以来、日本の皆様およびJHPサポーターの皆様に変感謝しております。

2002年の11月30日にCCHが創設されてから、CCHはゴミ山や道端でゴミを拾って生計を立てていた子どもたちに対して、一時的な住まいの提供や、教育、技能指導やしつけなどを行ってきました。現在は（外部から通う小学生を含め）166名の子どもたちが在籍しています。

CCHには小学校が併設されており、子供たちの幼稚園・小学校レベルまでの教育を行っています。学生たちは勉強だけでなく、日常生活や社会において必要なスキルトレーニングも受けています。

やがて彼らは社会人となり、自分の意思決定や行動に対し正当性や社会性を考慮しながら、責任を持たなければなりません。教育は、彼らが職に就き人生を成功へと導く鍵となります。すでにCCHを卒業した181名に上る社会人たちの多くはカンボジア国内で働いています。なかには日本やタイ、韓国、オーストラリア、アメリカなどで働いている卒業生もあり、彼らは自立して家族を持ち、母国カンボジアの社会を経済的に支えています。

最後にJHPの小山内代表をはじめ、日本の支援者の皆様に重ねて御礼申し上げます。皆様のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。



コミュニティプロジェクト



コンピュータートレーニング



メイクアップ

項目	総数	男子	女子
小学生	25	13	12
中学生・高校生	16	6	10
ドンボスコ	10	5	5
自立している高校生・大学生	13	5	8
社会人（CCH卒業生）	181	107	74
カンボジアの大学在籍者	3	1	2
海外の大学在籍者	1	1	0
貧しいコミュニティでサポートしている子ども	24	11	3

2020年3月31日



CCHが運営する小学校に通う子どもたち

プロジェクトの背景

ボルボット時代に家族を失った経験を持つソカ氏の孤児院設立の構想に対して、2002年に当会が施設を建設し、創設に携わった。贈呈式は2002年11月30日。主にゴミ山で生活していた孤児等を調査面接し、就学意欲のある16人の支援から開始した。CCHはCenter for Children's Happinessの略称。日本語では「幸せの子どもの家」と呼ぶ。カンボジアのNGOとして正式に登録されていて2020年3月現在41人が在籍している。CCH内で運営されている小学校では、CCH内部の子ども25人の他に、外部の子ども61人を受け入れている。

ボランティア派遣

■8月カンボジア体験ボランティア 8月11日～8月22日

活動内容：○ブランコ建設 ○校舎補修 ○子どもたちとの文化交流 ○フィールドワーク
○ワークショップ ○他団体訪問 ○児童養護施設（CCH）訪問等

活動場所：プノンペン市、スワイリエン州

参加者：高校生4名、大学生12名、社会人6名 計22名



ブランコ建設
3日間炎天下での作業



校舎補修
校舎の汚れを落としペンキ塗り



贈呈式参加
ソーラン節披露



CCHでの交流
カレーパーティーと交流

■ボランティア活動の受け入れ

校舎や各種施設を寄贈された支援者（企業、団体、個人など）の希望に応じて、定期的にボランティア活動を受け入れています。活動内容は、校舎やトイレの補修作業、遊具やバレーコートの建設、子どもとの交流、文具寄贈など。支援者の希望を基に、現地の学校と調整しながら進めていきます。



校舎塗装



バレーコート寄贈



ブランコ建設

プロジェクトの背景

JHP 創立以前の1991年に、小山内代表が湾岸戦争後のイランのクルド難民救援に参加。ここで初めて学生と活動を共にし、成長する姿を見たことがきっかけとなり、地球的視野を持つ若者を育成する事業を開始。これまでに海外は、カンボジアを含め複数の国々へ派遣。国内は、阪神淡路大震災や熊本地震など救援活動にボランティアを派遣している。

成人識字教育事業

2018年からスタートした成人識字教育事業は、第2期目の識字クラスが10月に開講しました。第1期目と同様に、コンボンチャム州バティエ郡にある非識字率の高い4村で100名の生徒を対象に識字クラスを実施しています。この事業では、生徒が読み・書き・計算の知識を得ることによって、生活の質の向上に繋がることを期待しています。第1期修了後、自信が持てるようになり、新しくビジネスを始めたり、子どもの勉強のサポートをするといった、新しいことにチャレンジしている生徒もいます。第2期の識字クラスでも100人全員の生徒の合格を目指し、現地カウンターパートと共に、一つのチームとして全力で取り組んでいきます。



教員養成コース



識字クラス開講式



識字クラスの様子

識字クラス生徒の声

私はポルボト時代に父親を失い、家も貧しく、妹や弟の世話を小さい時からしなければならなかったため、学校に通ったことがありませんでした。また、読み、書きができず、ローンの契約を締結する際には契約書が読めず、騙されそうになったこともあります。手紙や結婚式の招待状なども理解することができず、いつも他の人に助けてもらっていました。識字クラスを始め、少しずつ文の読み書きができるようになって、自分に少し自信を持つことができるようになりました。識字のクラスはいつも楽しく、分からないことがあれば、先生に聞き、先生はいつも丁寧に教えてくれます。この識字クラスを



卒業した後は、知人が小売店をしているので、そこで顧客のリストを書いたり、売買の手助けをしったりしたいと思っています。

サウ・パー 48歳
職業：農婦

識字クラス教員の声

自分より年齢が上の人達に教えるのは初めての経験ですが、授業内で使用する言葉に気を配り、反復指導をする等工夫する事は、私にとってとても良い勉強になります。また計算を指導する際には、石やストロー等身の回りにある物を使って分かりやすく指導するように心がけています。クラスを終了する生徒の皆さんに期待することは2点です。衛生に関してよく学び、病気や菌から身を守る大切さを理解して下さい。そして、小学5,6年生で途中退学する子供もいるのですが、この識字クラスを通して教育の大切さを理解し、最低でも高校3年生まで継続して子ども達を学校に通わせてください。このクラスが修了した後、クラス全員でお祝いする約束をしています。全員に修了証書を授与できるように、力を尽くしたいと思います。



サオ・スン先生
ボ・ルッセイ村担当 識字教員

昨年に引き続き、パナソニック（株）の企業市民活動、「みんなで「AKARI」アクション」の一環としてソーラーランタン 30 台を寄贈いただきました。また、海外ボランティア特派員のカンボジア訪問もあり、識字クラスの見学・生徒へのインタビュー等の視察がありました。CCHも訪問し、子どもたちとの文化交流も行いました。



「事業の背景」に関しましては、P28 2-4 成人のための識字事業 事業の背景 をご参照ください。

災害救援 復興支援

■復興の目途が。東日本大震災

被災から9年目。忘れてはならない2011年3月11日発生した東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。JHPは直後に南三陸町へボランティア隊をおくり救援物資を届けると共に、地元の社会福祉協議会に協力しボランティアセンターを立ち上げました。

「多くの皆様のお力添えのお蔭で復興の目途が着きました。」昨年の夏にJHP東京事務所を南三陸町の佐藤町長が訪れ、JHPの仲間の皆様に宜しくお伝えくださいとの謝辞と感謝状を頂きました。



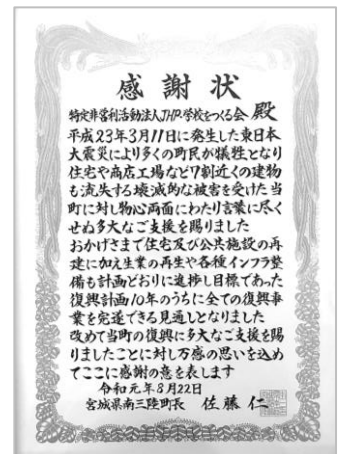
JHP三島の山岡理事が地元やJHPの皆さんに呼びかけて、大震災を風化させず、町内の活性化と風光明媚にお役に立てばと桜の苗木を毎年植えて1,600本になりました。今年もまた、20名の仲間と110本の苗を植え込みました。

■台風19号上陸各地に甚大な被害

台風19号は、10月12日から23日にかけて上陸、東海から関東を中心に記録的な大雨となり河川が決壊し各地に甚大な被害をもたらしました。JHPは皆様に支援カンパを呼びかけると共に、被災地域が広範囲の為に、この度は、被災された会員の方、ご支援者の方々にお見舞いをお届けすることとしました。メールやお電話にてご消息と被災状況をお伺いいたしましたが、皆さま幸運にて被災された方はおりませんでした。お寄せいただきましたご支援金は災害支援資金に積み立てさせて頂きました。



佐藤町長（右）と今川副代表（左）



南三陸町からの感謝状

アフリカへ毛布をおくる運動

■アフリカへ毛布をおくる運動

アフリカへ毛布をおくる運動は2019年で36年間継続されました。

この間にアフリカへ送られた毛布枚数は419万枚に達します。アフリカ諸国はあいかわらず毛布を必要としています。高齢者、孤児、身体障害者、エイズ患者、自立困難者、自然災害被災者、難民など毛布を必要とする人々がいます。2019年に寄贈された毛布はマラウイ、モザンビークに送られました。

2019年は「一枚の毛布が、家族の明日を支える」を合言葉に、アフリカへ毛布をおくる運動キャンペーンを4月1日～5月31日の2か月間実施しました。



啓蒙活動

8/10 天満敦子チャリティーコンサート Vol.15 浜離宮朝日ホール大ホール



第15回目となるコンサートは、今年は8月10日（土）、浜離宮朝日ホールにて開催。来場者は招待者を含めてほぼ満席の約500名でした。

当日のコンサートでは、前半は主にヨーロッパの名曲中心に「シューマンのトロイメライ」、「ロンデリーの歌」、そして天満さんの代名詞とも言える「望郷のバラード」などの親しみ深い曲を、そして後半は、「五木の子守唄」、「夏の思い出」などの日本の曲を中心に演奏していただきました。

前半が終わり、休憩前の天満さんのトークの時間では、前回のコンサートで宣言されたことをきっかけに実現した、カンボジアでの音楽交流の体験談を、ユーモアたっぷりにお話いただきました。来場の皆さんは、天満さんのお人柄と、愛器「ストラディバリウス」の音色に癒され、至福のひとときを堪能された様子でした。

ご報告 入場料・募金 2,446,892 円
支出合計 1,170,378 円
チャリティー額 1,276,514 円

次回は2021年8月14日（土）に、同じく浜離宮朝日ホールでの開催を予定しています。

諸活動を認知いただく取り組み

活動名	主な内容・実績
JHPニュース発行	○年2回発行。部数3,500部。 ○カラー印刷、透明封筒の活用を継続。 ▶データーのPDF送信数は54件（'20/3上旬現在）
ホームページ運営	○JHPの諸活動や体制に変更・新設や、イベント等のお知らせ情報が生じる都度、作業を実施。 ▶サイト訪問件数24,521件/年
メールマガジン	○年20回発行。閲覧者1,284人（'20/3上旬現在）
SNSの活用	○メールマガジン未登録の方への情報提供や、会の日常的な話題の紹介、イベント当日の話題提供としてFacebookとTwitterを活用した。 ▶FaceBookフォロアー：942人（'20/3上旬現在） ▶Twitterフォロアー：383人（'20/3上旬現在）
報告会・説明会	○10月19日「カンボジア体験ボランティア」それぞれの活動報告会を実施した。
講演・講義等	○役職員が年13回実施した。
来訪者受け入れ	○プノンペン事務所が258人を対応した。
カレンダー販売	○575部を販売した。

イベント出展

外部イベントには年間10回参加しました。

各イベントでは、JHPの諸活動の紹介と各種事業の資料配布を行い、1人でも多くの方にカンボジア・ネパールの教育状況について知ってもらい、協力者を募ることに努めました。

各会場では、会員のボランティアにも多数ご協力いただき、教育支援の資金を集めるために、カンボジア・ネパールの民芸品販売や募金活動等を行いました。



各イベントは、JHP会員や支援者の皆様にも多数ご来場をいただき、盛大に、そして楽しみながら実施することができました。

オリエンテーション

JHP 活動説明会

JHPの活動や、カンボジアやネパールの様子などについて紹介し、国際協力や国際支援をともに考える機会としてオリエンテーションを実施しました。主に学校や団体などの要望を受け、合計10回の開催で47名の参加がありました。（2020年3月上旬現在）

2019年度は、昨年度と同様に、中学・高等学校の社会科見学や修学旅行の訪問が多く、その他にも、途上国の教育事情を知り、具体的に「自分にできること」を考える中で、JHPの活動内容に興味を持って直接訪問された方が多くいました。

そういった問い合わせは、特に高校生や大学生に多い傾向にあり、途上国の現状を「自分ごと」として考え、アクションを起こそうとする若者が増えてきていると思われます。



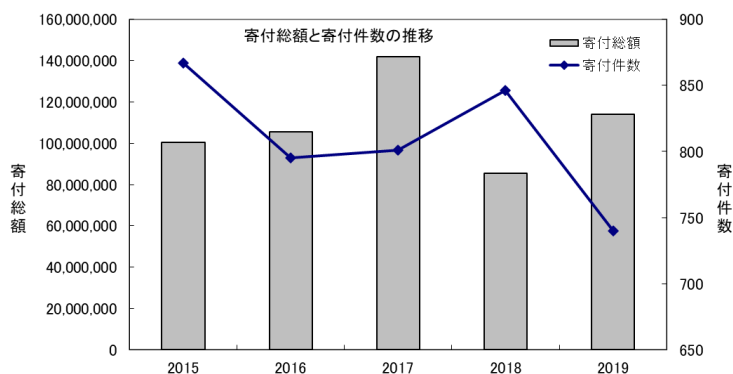
組織運営

会員数 539人(2020年3月現在)

	正会員	賛助会員
一般	341	139
特別	9	10
学生	40	0

前年比30人減 新規会員33人

寄付金 740 件 114,036,986 円



皆様からの各種ご寄付・寄贈

●お宝エイド

「もの」で寄付する JHP・学校をつくる会 お宝エイドプログラム。

皆様のご家庭や会社で眠っている品々がカンボジア・ネパールの教育支援になる新しい寄付の仕組みです。お宝エイドのご協力により10%をめぐりに上乗された金額がJHP・学校をつくる会への寄付となります。

今年度実績：394,144 円

●BOOK SMILE

皆様の読み終わった本やCD・DVDなどをブックオフオンラインが買取り、その買取金額+10%がJHPへのご寄付となります。

今年度実績：24件 116箱 148,222円

(BOOK・OFF 上乗せ分10% 13,470円含む)

●スカイウィッシュチャリティプログラム

デルタ航空のマイレージプログラムよりJHPへマイルをご寄付いただけます。個人の方はもちろん修学旅行など学校単位でのご寄付の輪も広がっています。

今年度実績	
受領マイル	約450万マイル
利用マイル	約180万マイル
年度末残数	約2,500万マイル

●書き損じはがき

寄付数：7,648枚

●未使用切手

206枚 4,838円

●テレホンカード

7枚 (3,500円分の通信費に相当)

●寄付サイト

6つのサイトより66万円を受けました。

●クレジットカード

利用数：77件 (638,113円)

●募金型自販機

1台設置

各種会議の報告

会議内容	2019年度の主な内容・実績
会員総会	2019年6月22日（土）開催。 出席者144名（委任状含む）。 2018年度事業報告及び決算報告、2019年度計画及び予算報告を行った。
理事会	第139回～第142回まで年4回実施。
運営協議会	理事と事務局の情報共有、理事会審議事項の協議・検討の場として年8回実施。
定例ミーティング	東京事務所（逐次） プノンペン事務所（週1回）実施した。

助成金・実施実績

今年度は、下記の助成金を申請し、事業を行いました。

名称	対象事業
連合「愛のカンパ」	成人識字教育事業
公益財団法人JKA (競輪補助事業)	ボランティア派遣



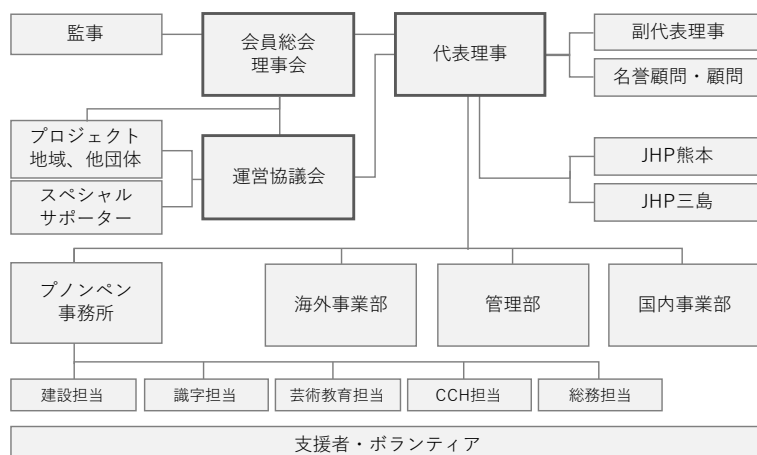
■ボランティア受け入れ

東京事務所では年間を通してボランティアの皆さんを受け入れています。今年度は年間を通して203人の皆様にご協力いただきました。定期的に参加いただいた方55名がボランティア保険に加入しました。

レギュラーボランティアは49回4人のご協力をいただきました。楽器清掃活動は日曜日を中心に年間9回実施、鍵盤ハーモニカ清掃台数596台、梱包数36箱・90人のみなさんの協力をいただきました。カンボジアへの鍵盤ハーモニカ輸送台数は795台届けることができました。

運営体制（2020.4 現在）

◎JHP 組織図



◎役員

代表理事	小山内美江子
副代表理事	今川純子
理事	佐伯蘭子、山岡修一
	佐谷隆一、脇田知子
	吉岡健治、青野達司
	伊藤多栄子、中込祥高
監事	櫛田正昭
顧問	今川幸雄、立石義明

◎東京事務所

区分	2018年度	2019年3月	2019年4月	2020年4月
常勤役員（定勤役員）	4名	4名	5名	3名
職員	2名	2名	2名	2名
職員（契約）	2名	1名	1名	0名
パートタイマー	1名	2名	3名	3名
ボランティア（定期）	8名	1名	1名	1名

※2020年4月より常勤役員は定勤役員に変更

◎プノンペン事務所

区分	2018年度	2019年3月	2019年4月	2020年4月
職員（日本人）	3名	3名	3名	3名
職員（ローカル）	7名	7名	7名	7名
専門家（ローカル）	1名	1名	1名	1名

※2018年度の数に従事者合計



JHP 行動基準

私たちは、地球的視野を持って活動します。

- *開発途上国の人々と同じ目線で学びあいます。
- *より多くの人に新しい経験や自己研鑽の機会を提供します。
- *諸外国と日本を結ぶ架け橋（国際交流）の役割を担います。

私たちは、社会的に弱い立場の人々の自立を支援します。

- *主な支援対象である「子ども」に対して、ハード、ソフトの面から一人ひとりの未来を支えます。
- *国内外の災害救援時に被災者の自立を支えます。

私たちは、「できることから始めよう」を実践します。

- *人を活かし、一人ひとりの個性や能力が発揮できる組織を目指します。

私たちは、活動に関わる全ての人々がお互いに理解し合える関係を築きます。

- *プロジェクトを成功させるために、支援に携わる人、支援を受ける人と良好な関係を築きます。

私たちは、常に現場のニーズに基づき活動します。

- *現場のニーズが活動の原点であり、その状況を直接調査し、見極めた上で事業を立案し活動します。
- *現場の人々と直接交り、汗を流し、助け合い、学びあいながら活動を進めます。

私たちは、皆さまからのご浄財を責任を持って効果的に活用します。

- *支援者の思いに応え、報告や連絡を丁寧に行い、信頼関係を構築します。

私たちは、活動を進めるにあたり危機管理を徹底します。

- *役職員、ボランティアの安全（危険予知と防止）と衛生管理を徹底し、活動環境を整備し、事故なく活動を継続させます。

私たちは、以上の行動基準について、ヒューマンパワーを結集させて実行すると共に、時代時代に適した内容であるかを定期的に見直し、改定していきます。

制定日：平成25年1月11日

JHP・学校をつくる会 代表理事

山内美江子

アカウンタビリティ・セルフチェック (ASC) への取り組み



2016年3月25日、当会は国際協力NGOセンター（JANIC）が普及の中心となるASC2012にチャレンジし、必須項目は33のうち32、強化項目は8のうち6項目をクリアし、2010年2月に実施したときよりも6項目多くクリアすることができました。左のマークはJANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）についてJHPが適切に自己審査したことを示しています。

今年度もASC2012の全項目クリアに向けて組織力の強化を進めます。

認定NPO法人



JHP・学校をつくる会

JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

〒108-0014 東京都港区芝5-14-2 鈴木ビル2F

TEL 03-6435-0812 FAX 03-6435-0813

E-Mail tokyo-office@jhp.or.jp ホームページ：www.jhp.or.jp

Twitter：[@JHP_tokyo](https://twitter.com/JHP_tokyo) Facebook：JHP・学校をつくる会

本書の印刷は株式会社プロネクサス様にご協力頂きました。